HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第9巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1961-02-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77588
Type	manuscript
Note	『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I012_019.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

9

HA4

(12)

NOTE BOOK

国民社会の研究

第九巻

昭和三十六年二月一日

9

統治の中心と主語は人ではなく機械に
あるすがたをすすし。
ルールと主語
日本国民統治の原理は特定され
政治の安定性ならびの
社会学的研究者の尊重は知的
統治技術は政府の安全
国民統治学者の国是
国民統治は実務性
国民統治は習慣権力
国民生活の不動
行政行為の自然行為
実効性と善と権力との規範理解
生活
統治組織の正確さと新民主化
中央での制度と地方自治の
統治主語の失敗のもとに
日本においては国家統治の原則
その中央部の活動

38 32 30 29 28 26 24 23 22 19 18 16 14 10 9 7 2 1

段 を 官、 なく。

統治の中心と末端は人ではなく、
機械である事が望ましい。
中心には感情が動かない様にする為に、
例えば電子計算機の様な機械で
ある事が望ましいし、末端は公平を
期す為に機械である事が望ましい。
中心と末端との中間丈で所謂政
治家ははなし合ったらよい。

中心と手段

国家統治者は国土内にある利用し得る限りの物と労力をことごとく吸ひ上げる事が一番の希望である。吸ひあげたものを如何に利用するかは本当の問題である。自分や家族や国家の一族が利用せしむるものは充分にとりあげて独占したものは直属の部下に与へ次に部下以下の統治者層に与へ適当な余ったと云ふから統治の為の設備の整備の為に、又統治に対する反対派制御の為に用い尚は余ったものがあれば呈れて

日民の~~中~~生活の安定や向上に使用する。
とにかく日本は物と労力をまるで吸い上げる事が統治者の原則である。余すところなくすい上げる為に~~〇~~日民には生活的には全く統治の最末端にある邑村から吸い上げる為には、その村の一人の者も一人立ちが出来ない様にしておく事である。~~肝心な要事である。~~その一人の者も家に属し、家長に依頼しなければならぬ。家長は村の社会に依頼せねば

れはないぬ。村は一蓮托生といふのが
江戸時代の定め。村中の努力は
饑之の直前まですい上げられる。藩
にすい寄られ、それが一国の中心に
達した。村の中では代表と役職
とである丈の上納をした。そうして
維持されていた江戸政府。その為は
家においては君、藩主に対しては一
が絶対服従であった。それで吸い上
げられる丈吸い上げられた。
明治になっては明治政府と独占
本の成立は家を足場に努力と物

を吸ひあげたけ吸ひあげた。
この場合にはもう自然村内の首長的
権力は何んとも示す。中小土豪の
過半家は家を畜して家臣の
勢力を小姓に到るまで収奪した。
江戸時代に村の納貢米をもしれなく
収奪するためには村内の代議権力
を利用した。今の土地をかせぐ
の首権力を利用する
民権は名は父母に対する小姓の孝
心を利用する可丈つまれりなり
自然村の枠は（ここでは）通さるかである。
自主近隣の歴史は大阪の政者の
領域

民意から大小漏れなく吸収するための組織納金の完遂よりであった。

江戸時代の五人組は相互監察的なもので、治安の維持は明治時代の隣保により、至堅牢による公平を期するも、無責任にして徳化が乏しく、その機能を果すが如き、今日の生産増進者が遂成し得ないのであった。

国民が訓練し、平素指導者を要求すれば、政治は是正されたのである。従来ここ為に色々の働き為や人の地位や、経済的価値のある事も少ない。支持し実施することである。

一、統治者階級の生活下部構造より上部構造への道

一、財と統治者階級における支配の下部構造と上部構造

~~[illegible]~~

一、政府的下部構造より上部構造

一、被治者的下部構造よりの上部構造

一、政治的権力を形成して来た事が[illegible]

一、政治は人民の生の物を暴力を以て事業より統治者が多く収奪する事を事業とする機構組織に可能ならしむる組織の結構的生活部

一、政府の末端的機関が国民一人一人に与えている影響は何か、[illegible]けているものは何

日本国民社会の実際的研究方針

一、国民の生活下部構造の平素的発展（平常文化〔経済構造〕）

二、社会的下部構造よりの上部形式の歴史的発展（文化、宗教、芸術外）

三、社会的基本的枠組としての国家統治組織の歴史的発展史（政治、経済、法律）

五、現在日本における生活下部構造と統治者階級の基本的枠組及び権力の上部構造の組合的理解を統治組織の最下部において理解する事

四、日本国民の生活上部構造の発展史

9

政府の主権的なもの

口民経済構造によって機関が口民に渡つてゐるけれども之を受けて

のは何か、どの口民に於いても意識の

共通点として考へつゝ一言にして云ふ

ものは何か。それは政治の究極的な

最根本的なものがあるは普遍的一

社会学的理論の基本的範疇たる
化との社会学は縦には歴史の理
は経済学的な「歴史」の進行の上に立たな
ければならぬ事と横には国民
社会的の均衡の構造の内にお
いてなさるる事は何としても重要
の事であるが、然し経済と戦
後における社会構造の発展が著へ
れしめて、今まで之は主としてマルクス主
義と資本主義者の唯物的経
済史家的見解にあったが
なかるは主としてパーソンズ等の社
会体制の理論に見られるのである
かつてはS.ミルは独裁的なる存在
の中にこの二つを共に同かり

11

していたから其の価値は全く失はれて

あった。彼はたしか relative absolute

Relativität と云ふ語で表明して

た。彼は之れを[illegible]に

偉大な[illegible] Frame

absolute possible はなしかしル

ネッサンスの所謂近代体制である。

然し彼等は其の発展の段階に

於ては気付かなく、其の中に住んでい

近代的なものとの関係は全くわかり

していた。

近世における近代的なものは前者すなはち

私の成長過程と結びつけるのによって

理解されるのが多かったし又それが

両勢力

伴ふ封建思想（資本主義的合理思
義と封建的階級的保守主義）の対
立調和の均衡を見出す（は破綻[illegible]）
されなし得今なお[illegible]一矛盾
作品の示す系は（縦と横の強
い制約の中に芸術家[illegible]さよう
あとあらゆる芸術は原始的には
全く明らかである。然し一面[illegible]
に作家的視点もまた多く存し理
想の芸術的均衡の外に感情
合理は明らかに混乱せしめる
れを正しく整理して芸術し得るのは
一史的視点においてあくまで独自
科学的な見方を全く独自の外に時

めの実現せらる手の外にはない。
神が口述された縦と横の大なる
創造について華は西来意を遂
示されば書いてある。然し又僕は
其の創造を完成するものより
より強く求めるよりも強く思
める事もあってはならぬ。其の実
現のまえに現われなければならぬ。
そこに芸術の独自の意識が
ある。

何らの工夫、
どんな事務を行ふのか、若しないならば何を
是用又は数年中に行ふ事務
の実績如何。

統治未遂活動の実例
其においては町村組織と農協とし、
協力関係は内容を強化されたい。
農協の実施一致を目指す協力推進し、
並びに農協と農民の関係の改善
方向への職員の努力は必ずしも
林務的な民に直接(関係)に来へ
てある。
実際における統治の主旨の活動を
積極的に扇へなくもよいのか等
であるの
役場を通す主旨は要協・小い問
かおくなし、更に扇なくしかえすするが
問題でする。工業を直すならい未持な
あるか。

三、国民は国土内の各地に居住しているが、生活の必要上又は伝統として大部分は聚落を形成している。その聚落は各地に分散して居り、国民を漏れなく居住せしめ統治に服せしめる為には統治機関が国内の各地に統合的に配置されて、その統治の地方的機構が配置されて居る。… 国家は聚落 … [illegible]

家族 → 聚落 … 村落の時代 [illegible]

[illegible]

「国民社会学原理」目次

一、方法論、実践的概念、統治、分離、国家 [illegible]

二、国民社会の概念

四、国民社会構造

五、国家統治構造、統治機関、附属機関 [illegible]

六、国民生活、生の細胞としての家族、文化活動、マスコミ、学校 [illegible]

七、国民生業活動—国民の生活 [illegible]、職業と生業、生産的作業

五、国家統治活動—生産活動の整序、防衛、教育、文化活動、法律と刑罰、統治の権力にある暴力組織、国民保障の限界、国家の暴力

十、国家対外活動—力の組織としての国家

16

(四) 三の研究に平行して家族生活の実態[illegible]
展し、家族の発展についての[illegible]
大きく家族制度の変化は[illegible]生産関係[illegible]
甚だしく合理化された[illegible]
階層の変化[illegible]思想[illegible]発展と[illegible]
生じ財の[illegible]的形式を[illegible]
るこれは産業化[illegible]生産関係[illegible]
されて合理化を通じて
家族の形式が変化[illegible]

合理化のための

七
国連を通じての、
協力、国際協調、世界国家の像

八
国民文化の史的発展と合理化
集団化規範化の成長と個人の価値体系の発展
階級と階層、意識と生活様式
華僑の習俗

コミュニティ
共同社会と全体社会
基礎社会をコミュニティは基盤
とした地縁社会と血縁社会を……NB 融合なし
西田の全体社会は自足性を
認めるコミュニティによって□家を通じ
ている。然し□家と□族とを
認めつつ……も全体社会は
完結社会として一つの継体力を
売っていない。
□民族は其存在の地域社会では
ある。□家組織によって初めて組織
体となり得るのではじめて□家と
□籍が……によって完結的
社会という概念化した。

15

□民族の完結性

私が□民族の語を用いる時には
それが社会生活の完結性と結びついている
からです。
社会生活の完結のみは其の社会生活を
他より区別づける境界線の明示が
必要です。
□民族の境界線は空間的境界
線としての□境の線と社会的境界
線としての□籍の線があり、この二つ
のものは全共に一律な的のもの
で、甲の□境の内は同時に乙の□境に
属し得るもの、籍は絶対的の

ども最高のもので之れを蹂躙（侵略）するのは
存しないと考へられないことである。
国籍も無くて一定に籍にあり
総てのものと考へられない。国家の無
視は皆之れ絶対のものであってはならぬ
之の自主性を尊重して、はじめて人類の
世界の政治的平和が可能となる。
人は何れの国家にか所属し国籍の
ない人は一人もあり得ない。少くとも何
れの国家にか所属しない土地は地球上
にはない。人が住んでいる土地は全く
何れかの国境内にある。

口語と口語によつて人の口家への吟為が
は明白である。されば二三人の生活と
活動は明白に劃附示す其の口語と
口語をえとすれば最もし劃然されて
いる。口民族内に於ける因果の
完結が見られる訳である。
共同社会、共存体は、全体なしが
は有機的因果の完結のための保障
としての整合的域限を有する
口域と有機的域限とを有する
口語の具体的な取扱いを
遂及しなかつたところに想示得に

20

〈

日本語における言語接触

日本語における言語接触を見出す事ではない。言語接触は

1. 方言・地方語

2. 階層語

3. 職業語

4. 集団的接触語

5. 年令語・他地域語

などの時間的実態、構造改革の内容を明らかにするすべてである。

三六・五・二九

国民気質の不節

政府がどんなに変っても国民は個人の良心を失わぬ。国民はどんな政府の下でも一職業に従事しなければ生活を維持しなければならぬ、法令の拘束は他人のものと他妻に対する保護の義務である。政府国体に対する義務というべき慮し、想像がある。

行政村の自然発生

自然村は自然都市は自然発生である
日本の自然村は自然発生する。行政
村も行政区画をもって自然発生する
自然村は自然村の外に行政
村を持つ自然村をもってす
人は国が人の未開から離れて行
としての政治を感覚とするのである
強者をして弱者を治める
のではなく政治は大地の声を聴く
力であるべきである。原始人の生活は
家族制度は同じ様な政治
を愛し真理の膝下にある[illegible]

としたのかも知れない。つまりこの人は[illegible]

[illegible]を示す[illegible]

[illegible]しい。よい。新しい[illegible]

三十六年六月七日

[illegible]

[illegible]

文学と生業と唯物論[illegible]

口民平場における文学の作(?)
あるものの生産過程が生業
である。佐保は総括すれば生業で
文学の優秀(?)をもち生産してゐる
ものである。
生業であるならば、それは不作(?)の
労働とか何ものの文化であり、芸術
と称される生業であれば、生産は後
ることもありうる。
されるべき生産関係をも前提
とされるならば精神と文化の有利(?)
を否定していないか？ それは唯物的
な生産関係のあるもので…それは

違つてゐる。西洋や日本の元々も
どんなに解釈出来るか。
書誉と古義とをどんな形でつかうか
の知つてゐる私の傍へ来て遠くへ
旅に出ると行ける。
六．八、

47

生業

人が金を出して買ってくれるもの。その時
労働が人が代価をだしてくれる労値
がが生業である。金になるもの。のか
労。労働が生産である。交易の価値
あるものの生産労働が生業である。

六八

29

統治組織の簡捷化と口民の精鋭化

に努めつゝあるも遂に口民は精鋭

化すること無し。手段枝葉に徒らに由無し

本務たる統合し得るか、国内の

抵抗すべき機会しくかつてある。

生産に励み、新しい生産を現す

口民は挙協力する。

二六、八、一〇

大 や
大学就 浪人失業民
職工場 中下請工場
本工 臨時工
大学就 小企業就職

農
工
労働
皆保険

中央での予想と地方の現実のズレが
政治的結果の失敗のもと
地方農民又は医学者が喰いついて
くるはずがないと思って建てた学校に
入学志願者は殆んどないと思った様なもの。
アトでは二元的解決へ政治が解
わかっているところに矛盾のしわがある。
どんなする解決かは国民の自由の
判断にまかしている。しかし当然(出来れば)に解
決心の上の期待をすて、解決する方
指導し強制している場合かもしれない。現在は
人為に対する極めて無為である。
農・工・漁・学やり 大量来にすればよい

実に、小資本のものは没落しつゝある。政治は大資本とのみ協力して計画しているからである。

[illegible]のは[illegible]

[illegible]糸の最高級の[illegible]

[illegible]洗え絹織へ[illegible]

[illegible]かけ[illegible]ない[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]世へ行った[illegible]要[illegible]

[illegible]学会[illegible]

[illegible]上級生[illegible]

[illegible]

[illegible]

八百三十[illegible]

供給する各全国民の調達すること

1月号「白樺」の巻頭に
つづいて「風」誌を
発刊、見つけ掲載